

「いいところみつけた (A 個性の伸長)」 (1時間)

授業者：上田 知沙都

1 本校の特別の教科道徳で目指す「価値」



2 本単元の社会的背景（現状と課題）

まず、日本の児童生徒の実態や、それに応じた授業づくりの基本的な考え方について述べる。

内閣府が公表した令和元年度版「子ども・若者白書」(2019) ⁱでは、日本の若者の自己肯定感は諸外国の若者に比べて低く、欧米など6か国との比較で最も低いとする調査結果が示されている。

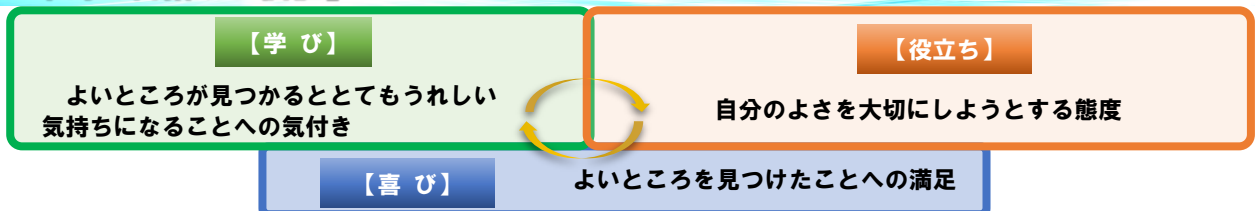
学習指導要領解説 ⁱⁱでは、本単元で扱う内容項目について「児童が自分らしい生き方について考えを深める視点から考えると、将来にわたって自己実現を果たせるようにするために、個性の伸長は重視されなければならない内容である」と、自己実現との関わりから個性の伸長が重視される理由を示している。指導に当たっては、低学年の発達段階について、「自分自身を客観視することが十分にできないとは言えないため、児童が自分の特徴に気付く契機となるのは他者からの評価によることがほとんど」であることに留意すべきであるとの指摘がされている。

また、国立教育政策研究所の生徒指導リーフ Leaf.18 ⁱⁱⁱによると、自己に対する肯定的な評価について、日本の児童生徒の場合には、他者からの評価が大きく影響するとしている。これら日本の児童生徒の特性や発達段階を考慮し、本時では友達からの評価から自分のよさを捉えられるようにしたいと考える。

次に、道徳教育の要としての道徳科「個性の伸長」の授業を構築する際に考えられる指導の工夫や環境構成について考える。知花 ^{iv}によると、年間を通して承認活動を取り入れた指導を計画的に行い、道徳の時間と学級経営との関連を図ることで、児童の自己肯定感を向上させることができるとされている。その一方、それは継続した指導である必要があることに留意しなければならないということも述べている。また、小出ら ^vによると、自己肯定感を高める試みは、複数の教科等にわたって教科等横断的に実践できるように、教科等間での連携がより一層必要となっている。そこで、日常的に帰りの会の「今日のツバメさん」でその日に良い行いをしていた友達を褒めるという承認活動を取り入れていく。また、国語で学習をした「うれしくなる言葉」の取り組みを、週に数回ずつ、1か月程度の期間継続する。そして、それを道徳の授業の中で改めて見つめ直すことができるようにした。加えて、毎日の帰りの会や、3学期の生活科の授業においても、「あしたへジャンプ」という、関連する取り組みを行うことにより、更に効果的な指導となるようにしていきたいと考えている。

このように、継続的に他者からの承認活動を行い、他教科や教育活動と関連させながら道徳科において「個性の伸長」について学ぶことにより、児童が自分のよさを知り、喜びを感じられるようにする。また、その喜びを得ようと、自分のよさをこれからも見つけていこうとする意欲や態度を育てていく。

3 本時で目指す「価値」



4 研究仮説

上記の「価値」を感じるために、資料からの学びだけでなく日常の承認活動を関連付けた学習活動を展開することにした。それによって、自分のよさを見直し、よさを見つけた時の喜びを知ること、今後も自分のよいところを見つけていこうとするのではないかと考え、次の通り研究仮説を設定した。

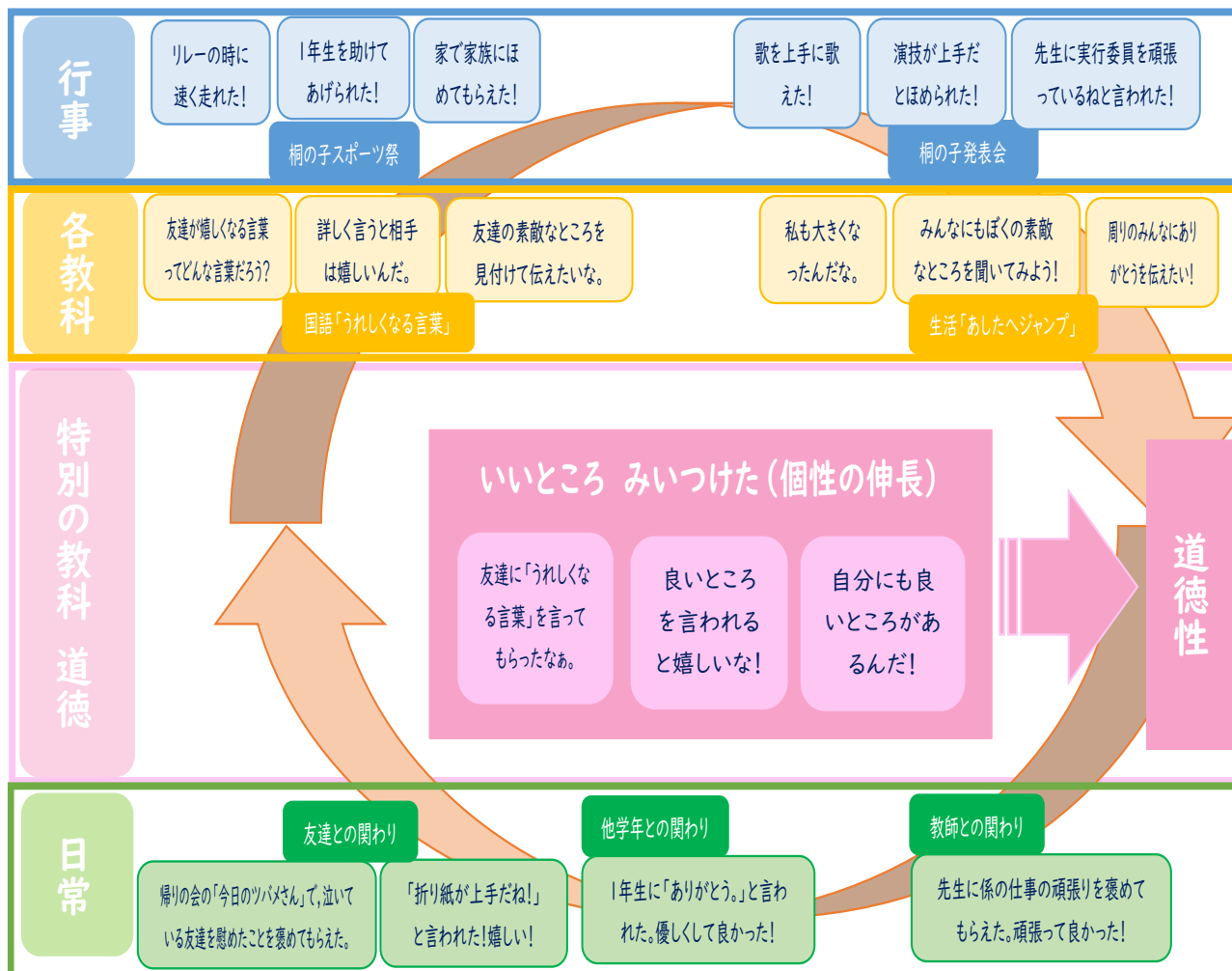
研究
仮説

資料からの学びに加えて、日常生活で断片的に捉えていた「自分のよさ」を改めて見つめ直すことにより、喜びを感じるとともに自分のよいところを見つけていこうとする態度を養うことができる。

5 本時で価値をつくる子供の姿

自分のよいところについて考える中で、よいところが見付かると、とても嬉しい気持ちになることに気づき、自分のよいところを見付けていこうとする。

6 本時のデザイン



7 「価値をつくる」という観点で見取りたい姿

【学び】

資料をもとに考えたり、自分のよさについて改めて考えたりすることを通して、よいところが見つかるとてもうれしい気持ちになることに気付く。

【役立ち】

自分のよさについて改めて考えることを通して、もっとそのよさを大切にしたり、他のよさを探したいと考えたりする。

【喜び】

自分のよさについて改めて考え、よいところを見つけたことの喜びを感じる。

8 本時（全1時）

本時の目標

自分のよいところについて考えるなかで、よいところが見付かるととてもうれしい気持ちになることに気づき、自分のよいところを見付けていこうとする態度を養う。

○ 学習活動や子供の姿（**④** 資料から **⑤** 日常生活から） **評価**

★ 教師の関わり

よさを見付けける芽

④ 事前にとったアンケートの結果を確認する。

自分は足がみんなより速いよ！

よく私は優しいねと言われるけど、時々意地悪もしちゃうんだ。

自分ではよくわからないよ。

たまに褒められるけど、叱られることが多いかな。

私はみんなと比べると悪いところばかり。

★ アンケート結果を交流しながら、自分のよいところへの捉えと、そう考える理由を交流する

自分にはよいところはあるのかな？

④ 資料を読みながら、りえさんについて確認をする。

④ りえさんはどうして自分のよいところを付けられたのかと、その時のりえさんの気持ちを話し合う。

先生に教えてもらえたからだと思う！

弟と比べたり、友達に責められたりして落ち込んでいたけれど、よいところが見つかってうれしかったんじゃないかな？

自分の良いところが見つかって、自信をもてたんじゃないかな？

★ 弟はよいところがあるが、りえさんはあまりほめられたことが無いことを確認する。

★ 自分のよいところは、周りに言われて気付くことがあること、また自分のよいところに気付いたときの喜びに気付けるようにする。

⑤ みんなも、誰かによいところを見付けてもらったことはあるかな？

「うれくなる言葉」でも、たくさんよいところをほめてもらえたよね。

カードをたくさんもらって嬉しかったよね。もう一回見てみたいなあ。

★ 自分も他者から褒められた経験があることを想起できるようにする。

⑤ 国語で学習した「うれくなる言葉」で、友達に書いてもらった言葉を読み交流する。

足が速いというのが多いな。

優しいと書いてあるのがうれしいな。

〇〇さんは確かに、みんなに優しいよね。

私も〇〇さんは、いつも勉強を頑張っていると思っていましたよ。

★ これまでに書いてもらった「うれくなる言葉カード」を机上に並べ、自分のよさを実感すると共に、それについて友達に改めてコメントをもらう。

⑤ 事前にアンケートと同じ内容について再度考え、ワークシートに記入する。

最初は3だったけど5かなあ。

やっぱりいいところもあるから、3かなあ。

友達に教えてもらえて、良さがわかったよ。

自分にもいいところがあったんだ。

★ 再度同じアンケートに答えることで、自己評価が更新されたことを実感できるようにする。事前アンケートで自己評価が低かった児童へは、個別に声掛けを行う。

⑤ 今日の学習を通して考えたことを書く。

自分にも良いところがあると分かった。

〇〇さんのおかげで自分の良いところが見付けられて嬉しい。

友達に良いところを言われて初めて知った。

これからも自分や友達の良いところを見つけたいな。

★ 本時の学びを改めて振り返り、日常生活でも素直に生活しようと考えられるようにする。

自分のよいところが見付かると、うれしい気持ちになる！

自分のよさを見付けける

自分のよいところについて深く見詰め、これからも見つけようと思えることができる。〔記述〕

日常生活

自信をもって生活

⑤ 日常生活でも、自分のよいところを見付けようとする。

★ 自分のよさを見つける契機となる「今日のツバメさん」の取組は年間を通して継続する。

9 本時の構成 (全1時)



i 内閣府(2019)「令和元年度子供・若者白書」

ii 文部科学省(2018)「小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編」pp. 34-35

iii 国立教育政策所(2015)「生徒指導リーフ『自尊感情』?それとも『自己有用感』」

iv 沖縄市立教育研究所(2017)研究紀要131号研究報告書第57集小学校教育(道徳)

「自他のよさに気付き、自己肯定感を高める指導の工夫～道徳の授業を軸とした承認活動を通して～」知花奈央pp. 21-40

v 日本健康教育学会(2021)日本健康教育学会誌29巻1号

「小学校低学年における児童の自己肯定感を高める授業の試み—特別の教科道徳と体育の教科等横断的な取り組みから—」小出真奈美・片岡千・荒井信成 pp. 61-69